



第4号 平成26年5月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

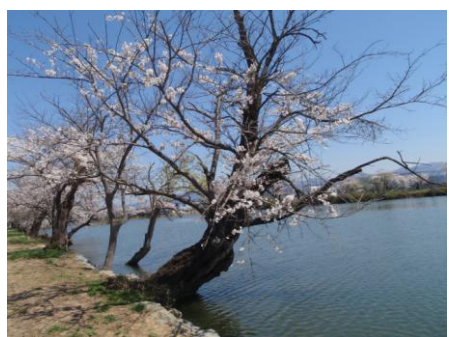
発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656 (FAX兼用)
携帯：090-2270-6771
E-mail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

今年も満開。 しかし、ちよつと変？

3月の春雪が影響して、今年は春は遅いと思っていましたら、4月になり一気に暖かくなり順調に五郎沼の桜も芽が膨らんでいたようでした。20日ころから咲きだしたので、逆に例年より早く満開になるかなと思っていました。ところが、朝方は零度近くなる日もあったので、以外と満開になるのが遅いと思っていました。

今年「五郎沼の桜を守る会」設立一年目ですが、この期に桜の管理上、現状把握が必要と思ひ、あらためて、五郎沼の桜を一本一本カメラに収めました。総数で71本(20年ほど前に植樹した12本含め)ありましたが、今回より、順次ご案内して行きます。

西側堤体(昨年、石で補修したあたり)の桜ほど、花の付きが悪いため、施肥作業(詳細は裏面)を堤体の草刈時に行いたいと考えています。しかし、4号線沿いの桜は、車の排気が以前と比べクリーンになってきているため、今までの手入れの成果でもあると思いますが、非常に元気に咲いていました。



西側堤体の桜(花の数が非常に少ない)



五郎沼橋から見た南方側



満杯の駐車場



国道4号線側の桜

県立博物館のテーマ展「比爪～もう一つの平泉」を見て・・・

比爪館(ひづめのたち)が「平泉と同等以上の勢力があったのでは」と、県立博物館専門学芸員の羽柴直人氏は説明されました。発掘されている「かわらけ」が平泉と違う製造方法と同じ種類が、比爪以北からも発掘されていることにより、北緯40度以北を統治していた、一大勢力だったと推測されるとの事です。



比爪館と想定される赤石小学校付近からは、今から約800年以上前の遺物や遺構が発掘され、往時の歴史や文化が偲ばれます。比爪館に係る史跡の発掘は、県や町の関係機関の手によって周辺の諸工事が発生する都度に行われていますが、ほんの一部の発掘であり、その面積は広く、まだまだ多くの謎が土中に眠っています。

今年も五郎沼の桜を剪定しました。

2月8日に五郎沼の桜の病気(天狗巣病など)を取り除く、剪定作業を小路口・箱時水部落合同で行いました。



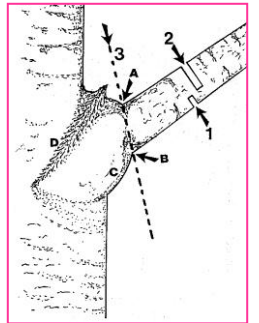
てんぐす病の枝切り



高い作業は気をつけよう！

◎枝の切り方

左図のように、できるだけ枝の生え元(点線3の部分)を切る。



◎カルスの成長

切り後の周辺が盛り上がっていても、傷口がふさがっている。



弘前の桜への施肥の仕方

2月17日に弘前市より日本一の弘前城の桜を管理している、小林勝氏の「弘前方式によるサクラ管理育成法」の講演会が開催されました。

その際に五郎沼の桜も見えて頂いたところ「沼の入口道路付近の桜は、大変、根の環境には悪いので、肥料を与えて見てください」と直接助言をもらいました。

「五郎沼の桜を守る会」としても、本年より少しづつでも状態の悪い桜より、施肥をしてゆく予定です。(第1回目として、5/31の堤体の草刈時に予定しています)

右写真は弘前城の桜の根の付近への施肥作業の様子で、穴を掘り、肥料をあげている様子ですが、五郎沼の桜も本来このような作業が必要になるかもしれません。

しかし、今回は右図の市販されているスティック状の肥料を実験的に使用してみたいと考えています。

※右写真は桜の根を全て調べている様子……大変大がかりです。



◎切口の処理方法

切口の切断面を平滑でいいいに仕上げ、切口には保護のための塗布剤を塗るようにします。

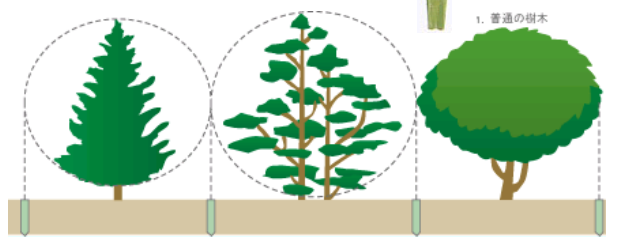
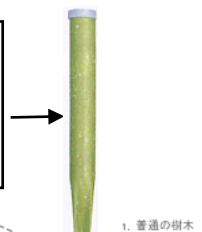
樹木の自然治癒力により、切除後は切口を覆うように切口周囲から新しい細胞が成長していきます。(癒合組織=カルスの成長)これは人間がケガをした場合、自然に傷口がふさがっていくことと同じです。この際、樹木の切口切断面が粗雑な状態であると、細胞の成長が遅れます。これも人間がケガした際の傷口が複雑であればあるほど傷がふさがりにくいことと同様です。

よって、切れ味の良い道具を使用し、できるだけ切口の切断面が平滑に仕上げることで樹木の再生、保護に必要となります。

グリーンパイル

(弘前でも使用)

長さ30cmほどのスティック状のため、楽に施肥作業ができる。



夜泣き石伝説

五郎沼には、「夜泣き石伝説」というものが伝えられています。沼の北端から100mほど進んだ東側の土手に大きな石が立っています。地上に出ている部分だけでも2m以上、さらに数m土中に埋まっています。いわれませんが、それにちなんでお話しです。

巨大な石は、その供養として立てられたのです。おかげで土手の決壊はなくなりましたが、不思議なことが起こり始めました。夜に石の近くを通ると、シクシクという悲しげな娘の泣き声が聞こえるのですが、振り返っても誰もいません。こういうことが何度起き、いつしか『夜泣き石』と呼ばれるようになりました。のちに、娘の遺体は大莊厳寺(だいしょうごんじ)に移され、手厚く葬られました。



工藤隼人氏資料 夜泣き石の碑文 梵字は薬師如来を表わす。延文2(1357)年の北朝の年号などが判読できる。